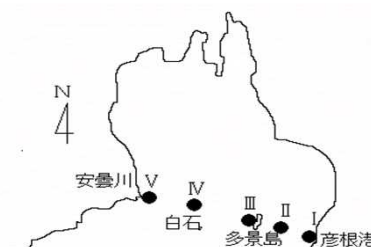


# 琵琶湖定点定期観測結果速報(令和5年3月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和5年3月14日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

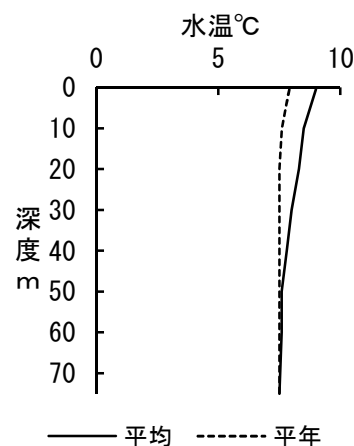
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2013年～2022年(平成25年～令和4年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 3月平均値 4.0m 平年値 6.4m

## 2. 湖水温 (°C)

深度 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	9.0	7.9	+1.1
10	8.5	7.6	+0.9
20	8.3	7.5	+0.8
30	8.0	7.5	+0.5
40	7.8	7.5	+0.3
50	7.6	7.5	+0.1
60	7.6	7.5	+0.1
75	7.5	7.5	+0.0



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
2月下旬	6.9	7.2	-0.3
3月上旬	8.9	7.8	+1.1
3月中旬	10.4	8.3	+2.1

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	3月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	8.9	5.3	+3.6
10~20	4.7	2.3	+2.4
20~40	3.3	1.8	+1.5
40~75	0.9	1.4	-0.5

(プランクトンネットNXX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

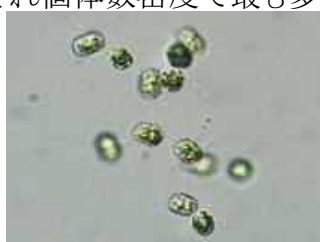
○プランクトンネットNXX14による採集(植物:未固定 動物:5%中性ホルマリン固定)

植物プランクトンは、全ての地点で*Asterionella formosa* (ホシガタケイソウ:珪藻)が細胞数で最も多く認められたほか、*Cosmocradium constrictum* (コスモクラヂウム:緑藻)も全地点において細胞数で多く認められた。

動物プランクトンは地点1で*Pelagodileptus trachelioides* (ペラゴディレプタス:繊毛虫)が、地点4~5で*Eodiaptomus japonicus* (ヤマトヒゲナガケンミジンコ:カイアシ類)のものと思われるノープリウス期幼生がそれぞれ個体数密度で最も多く認められた。



*Asterionella formosa*



*Cosmocradium constrictum*



ノープリウス期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L)

深度 (m)	3月平均値		平年値		平年差	
	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)	DO	(酸素飽和度%)
0.5	11.4	101.6	11.5	100.9	-0.1	(+0.7)
10	11.4	100.5	11.4	98.4	0.0	(+2.1)
20	11.4	100.2	11.3	97.3	0.1	(+2.9)
30	11.1	96.0	11.2	96.8	-0.1	(-0.8)
75	10.3	88.6	10.7	92.5	-0.4	(-3.9)